

Brewer, J. Gordon.: *The Literature of Geography: A Guide to Its Organisation and Use*. 2d ed. London: Clive Bingley; Hamden, Conn.: Linnet Books, 1978. 264 p.

源 昌 久^{*}

本書は、英国の Bedford College of Higher Education の司書で、情報科学の専門組織、Institute of Information Scientists の Member という資格をもつ著者によって書かれた地理学一般の文献案内である。初版は1973年に刊行され、5年後に第2版が出版された。本書第2版は著作の目的および構成は初版を踏襲しているが、新たに書誌地図学 (Cartobibliography) の一章が設けられ、新しい文献が400タイトル以上追加されている。その結果、ページ数も56ページ増加した。

全体の構成は次のとおりである。

序

第1章 地理学文献：展望，構造，および利用

第2章 図書館における地理学文献の組織化

第3章 一般地理学：書誌および参考図書

第4章 一般地理学：定期刊行物

第5章 一般地理学：単行書，テキスト・ブック，および論文集

第6章 地図書誌学 (Cartobibliography)

第7章 統計の情報源

第8章 政府および国際機関の刊行物

第9章 地理学史および地理（学）思想

第10章 地理学上の技法および方法論

第11章 自然地理学

第12章 人文地理学

第13章 地誌

第1章，第2章では情報源としての地理学文献の構造を分析し，文献を使用する際の前提条件について述べている。第3章以下第13章までは，個別的に文献案内を行うという方針で解説を

*みなもと しょうきゅう 淑徳大学

展開する。ここでは全章すべてについてその要旨を紹介することは紙数の余裕がないので、もっとも重要と思われる章のみを紹介しよう。

第1章では、はじめに地理学の性格およびその各部門の特徴とその関連について簡潔に述べ、展望の項では研究者に必要な数々の資質をあげる。地理

学の性格上、広範囲で、分散している文献に対処する能力は基本的に必要条件であるとし、特に、高度の専門研究書は研究者を近隣分野の未知の文献へと導くと示唆する。実際に著者は、地理学そのものの文献を詳細に論じるばかりか、他の分野への手懸りをも与えている。

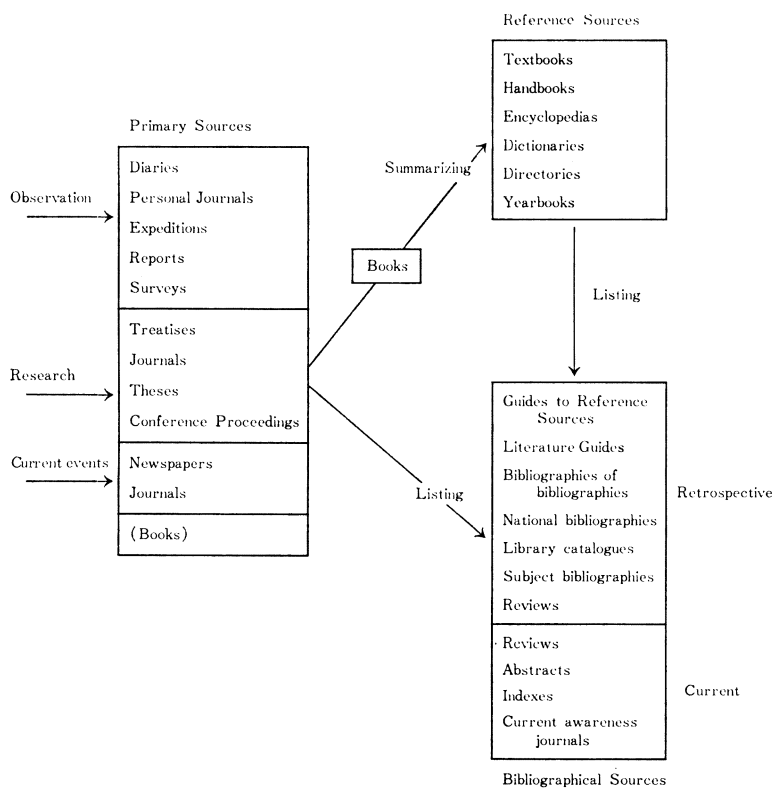


Figure 2: Origins of information, channels of communication, and bibliographic structure

つぎに地理学文献における使用言語、翻訳に関する情報をあげ、文献の出版形態を解説し、情報流過程を図式化（Fig. 2を参照）し、大量の情報を整理する手段のひとつとして書誌の編集による調整に言及する。書誌のタイプとして遡及的なものとカレントなものに二分し、各々の特徴を記す。最後に文献探索のパターンを図式化し、レファレンスを記録する際の基本的ルール（カード、記録する事項等）、サイテーション・インデックスについても述べている。

第2章は、地理学研究のために役に立つ図書館サービスの概略を説明し、地理学資料が図書館の蔵書中で組織化される方法を論じることが目的である。まず、国立・学術・公共・専門図書館を個別に説明する。つぎに、地理学図書・資料の分類および現在使われている主要な分類表（DC, UDC, LC）と地理学の関係について論じる。書架分類上では、特定の地域研究のための資料は図書館中に分散され、検索することは難しい。また、分類体系は、ある主題に関する特定の図書や正確な情報の位置を決める手段であることを意図していない。これに対応する手段は目録であるとし、不十分な分類体系によって分離されている多数の項目から文献を探索するための必要性を考慮すると、目録を有効に使用する能力は地理学者にとって必須であると、著者は指摘している。

第6章の見出し語 ‘Cartobibliography’ は ‘Carto—bibliography’ とも綴り、現代生活において種々の地図や、地図の一般的認識の増大に伴ない、近年、使用されはじめた用語である。地理学研究において地図の重要性は、研究者が主な情報源に通じるばかりか必要ときには、より一層、専門化された事項を識別したり調査するために欠くことができない。

この章の主なテーマは、出版された地図および地図帳を遡及的に調査したり、この分野でのカレントな出版物に遅れないようにすることである。著者は書誌地図学をつぎのように定義する。「印刷された地図・地図帳および両者を管理するための書誌の道具にかかわるような地図生産物のリストを作成すること。」このような定義のもとに、総記の文献の案内、カレントな書誌、万国地図（帳）、ナショナル・アトラス、地域アトラス、主題図（帳）が解説される。

第9章では、はじめに本章に関係する文献を選択する際の留意点があげられる。第一に、いかなる地理学に関する著作も同時代の地理（学）思想の表現であり、基本的文献の選択は特に難しい。第二に、最近書かれた資料を選択する際に注意すべきことは、そのような資料は歴史的展望のなかで始めて評価することができるということである。このような留意点に基づいて、地理学史一般、古代およびギリシャ・ロ

ーマ時代の地理学, 中世および近代初期の地理学, ドイツ地理学, フランス地理学, アメリカ地理学, イギリス地理学, 発見および探検, 地図学の歴史についての文献案内がなされる。

以上, 大要を紹介したが, 本書の目的は, 著者 Brewer が序で述べているように, 地理学の全ての文献を網羅する書誌ではなく, それぞれの主題のなかで, 最も有用であり, 最も有意義であり, かつ最も権威のある情報源を見出すための入門的ガイドを提供することである。その範囲で本書は, 限られた紙数の内で上記の目的を十分に達成しているといつてよいであろう。地理学の性格が学際的であると同時に, 急速に発展している分野であり, 二次資料は時代遅れになりやすい傾向を有するが, 本書は1977年半ばまでに刊行された資料をカバーし, また, データも最新のものを使用しており, 現段階では相当カレントなものといえる。とりあげている資料は英語文献が主であるが, 必要に応じて, 独・仏語の文献をも紹介している。各分野における二次資料とともに, 一次資料も掲載し, そのタイトルに対して簡明でしかも内容をよく伝える解説が付されているので, 図書館員ばかりか, 地理学および関連領域の研究者, 学生にとっても有用な書物である。著者が文中にあげた各種の本文を補足する図式, サンプル・ページは本書の大きな特色である。また, 索引は著者・共著者名, 雑誌名,

広義な件名がある。

最後に結論にかえて, リスト・アップされている主な図書・雑誌が日本の学術図書館でどの程度まで所蔵され, 利用可能であるかという問題を検討してみよう。「学術雑誌総合目録 自然科学欧文編 1979年版」(文部省)を使用して, 所蔵状況を調べてみると, 英米のリーディング・ジャーナルである, *Geographical Journal* (The Royal Geographical Society, 1893—), *Geographical Review* (The American Geographical Society, 1916—) は共に100以上の機関が所蔵している。一方, 第3章でとりあげている二次資料である, 地理学の典型的な current bibliography を調べてみると, *Geo Abstracts* はかなり所蔵している機関があるが, これより以前から刊行され, 更に地図書誌学のツールとしても有力な *New Geographical Literature and Maps* (The Royal Geographical Society, 1951—) は東大理のみ所蔵。また, 独自の分類に基づいて, データを排列している, より有力な情報源である *Current Geographical Publications* (The American Geographical Society, 1938—) の所蔵機関は13 (内, 現在受入れ中 9カ所) という結果である。この調査でも判るように地理学文献の二次資料の所蔵状況はかなり貧弱であり, わが国の学術図書館の収書政策の一端を顕著に示しているようである。(1980 7.31)